

募集定員
6名

研修期間
4年



責任者からのメッセージ

泌尿器科
病院長 賀本 敏行



当教室は、宮崎医科大学の開設にともない昭和52年に開講されました。平成21年5月から私が3代目として担当させていただいており

ます。大学病院では“大学病院ですべき領域”を明確にし、連携施設との役割分担、開業医の先生との緊密な医療ネットワークを活用して、宮崎県の泌尿器科医療はかなり高いレベルになっていると自負しています。泌尿器科領域にはその他にも数多くの疾患がありますが、専門研修においては宮崎県の中で広く身につけていただくようなプログラムを作成しています。4年間で専門医を取得した後は、基礎研究に興味がある先生には大学院に進学していただきます。また希望があれば、国内の他の施設との人事交流も積極的に行っていますので、サブスペシャリティーとして特化した領域の病院や、“都会”の中核病院でのさらなる研鑽も可能です。医師として長く納得して仕事をするためには、診療の“実力”を身につけること、良き人間関係の構築、そして何より“家族”が大事です。そのためには医局の雰囲気 が最も重要だと思っています。その点、当教室の医局員の皆さんは気持ちの良い先生ばかりで、大変良い雰囲気 で仕事ができていると思っています。日本のトップレベルの泌尿器科になるために是非力を貸してください。

プログラムの特徴

宮崎大学泌尿器科専門研修プログラムは宮崎大学医学部附属病院を中心としたいくつかの診療拠点病院と地域医療を担う地方中核病院の2群から構成されています。泌尿器科専門医に必要な知識や技能の習得と同時に、地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を身につけることができるよう配慮しました。また学術的な涵養を目的とした大学院進学コース、専門研修後にはより高い臨床実施能力の獲得を目指す臨床修練コース、2つから選択することが可能です。

連携施設名等

	施設名	指導医	年間手術件数
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	賀本 敏行 教授、他7名	421
連携施設	県立延岡病院、県立日南病院、川南病院、藤元総合病院、野崎東病院、千代田病院、おがわクリニック、串間市民病院、潤和会記念病院、古賀総合病院、小林市立病院、人吉医療センター、熊本大学病院、済生会熊本病院		

専門医取得までのタイムスケジュール

○ 大学院進学コース

大学院進学コースにおいては専門研修4年次において大学院へ入学します。病棟や外来業務は従来と同様に行いますが、一方で自分の専門分野を決定し研究の準備も平行しながら行います。本コースを選択した場合は卒後6年間で専門医の取得が可能で9年間で学位を取得することが可能です。

専門医取得									
学位取得									
大学院									
専門研修プログラム									
卒業後	1	2	3	4	5	6	7	8	9
研修病院	初期研修	大学病院	連携病院	大学病院					

○ 臨床修練コース

臨床修練コースにおいても原則的には2～3年目を研修連携施設で研修し4年目に大学病院に戻って研修しますが、本人の希望や研修の進み具合により2年目以降の研修先に関しては専門研修プログラム委員会が決定します。

専門医取得									
専門研修プログラム									
卒業後	1	2	3	4	5	6			
研修病院	初期研修	大学病院	連携病院	大学病院					

取得可能な専門医資格および技能

- 1 泌尿器科専門医、指導医
- 2 癌治療認定医
- 3 泌尿器腹腔鏡技術認定
- 4 日本内視鏡外科技術認定(泌尿器科領域)
- 5 日本小児泌尿器科学会認定医
- 6 da Vinci Xi surgical system certificate
- 7 臨床腎移植学会認定医

プログラム達成目標

専攻医は泌尿器科研修プログラムによる専門研修により、「泌尿器科医は超高齢社会の総合的な医療ニーズに対応しつつ泌尿器科領域における幅広い知識、錬磨された技能と高い倫理性を備えた医師である」という基本的姿勢のもと、4つの基本的診療能力(コアコンピテンシー)からなる資質を備えた泌尿器科専門医になることを目指します。また、各コアコンピテンシーにおける一般目標、知識、診療技能、態度に関する到達目標が設定されています。

○ 4つの基本的診療能力(コアコンピテンシー)

- 1 泌尿器科専門知識
- 2 泌尿器科専門技能：診察・検査・診断・処置・手術
- 3 継続的な科学的探求心の涵養
- 4 倫理観と医療のプロフェッショナルリズム

主要症例名と実績数

- 1 前立腺、尿道 : 前立腺癌、前立腺肥大症、尿道狭窄、尿道下裂
- 2 膀胱 : 膀胱癌、膀胱結石、神経因性膀胱、膀胱尿管逆流症、間質性膀胱炎
- 3 腎 : 腎細胞癌、腎盂癌、腎結石、末期腎不全、水腎症
- 4 尿管 : 尿管癌、尿管結石、尿管狭窄
- 5 副腎 : 副腎腫瘍
(原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫)
- 6 陰嚢・陰茎 : 精巣癌、陰茎癌、停留精巣、精索捻転、陰嚢水腫

週間スケジュール(宮崎大学医学部附属病院の例)

時間 朝	月	火	水	木	金	土
	カンファレンス	抄読会			カンファレンス	
午前	外来診察・ 入院患者処置	外来診察・ 入院患者処置	手術	外来診察・ 入院患者処置	手術 外来診察・入院患者処置	手術 外来診察・入院患者処置
午後	外来診察・ 入院患者処置	カンファレンス・ 回診	手術	外来診察・ 入院患者処置	手術 外来診察・入院患者処置	手術
夕方	小児泌尿器科 カンファレンス(第2月曜)	病理 カンファレンス(隔週)				

指導医からのメッセージ



准教授 澤田 篤郎

泌尿器科の医師が携わる領域はこの10年間でダイナミックに変化しています。手術は低侵襲で精緻なロボット手術が主流となり、がん薬物治療では免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬の導入で治療選択肢が増えたこともあり、一人ひとりの患者さんに一貫して満足感のある治療を行うことが可能となりました。また排尿障害や尿路結石、男性医学や女性骨盤臓器脱など、幅広い領域のスペシャリティがあるのも泌尿器科の特徴です。特にロボット手術においては、泌尿器科では10年以上の歴史があり、安全性、低侵襲性、機能温存を高い次元で両立することが可能となっています。宮崎大学には最新機種のだ Vinci Xi が2台ありますので、泌尿器科ではこれをフル活用して最高峰の手術を患者さんに提供しています。当科の雰囲気は、漢気あふれる賀本教授を中心に明るく和気あいあいと仕事をしています。国内留学にも積極的で、京都大学やその関連病院、札幌医科大学などで貴重な経験を積んで医師としての幅を広げることも可能です。研修医の皆さん、ぜひ一度見学に来てください。待っています！

ココに注目！

泌尿器科とは？

外科or内科系？どんな疾患をみるの？全身管理はするの？抗がん剤の治療はするの？などなど、名称ではイメージがつかない科の代表だと思います。外科的治療では内視鏡治療、体腔鏡、ロボット支援手術を発展させ、内科的治療では分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤などを多く使用している科です。一人の患者さんに対し診断、手術、抗がん剤治療、週末期に至るまでを主科としてみる事が多く、初期症状から人生の終着までの一連の流れを体験・理解することができます。また、研修中に習得していただきたい手技として、腹部エコーや導尿などを指導しております。是非コツを掴んでください！最後に、研修すれば入局したくなってしまうと思います。お互い別れはつらいですが、他科に進まれる場合も笑顔でお見送りますので、心配なく研修に来てください！それでは、会える日をお待ちしております。

先輩からのメッセージ

泌尿器科2年目 久嶋 嵐

私が泌尿器科に興味を持ったきっかけは学生時代のクリニカルクラークシップです。先生方の優しさや、アットホームな雰囲気のカンファレンスがとても居心地が良く、将来は泌尿器科で働きたいと考えようになりました。また、女性医師はもちろん、男性医師であっても出産・育児に対するサポートがしっかりしているところも魅力の一つだと思います。私自身、昨年は入局一年目という立場ではありましたが長期の育児休暇を取得させていただきました。泌尿器科では個人個人の生活を尊重し全員でサポートできる環境が整っているため、仕事と私生活の両立に不安がある方でも安心して働けると 생각합니다。まだ進路を決めていない方、仕事も私生活も大事にしたい方は是非一度見学にお越しください。お待ちしております。

泌尿器科10年目 伊藤 歌織

泌尿器科は全国的に女性医師が不足しています。しかし、泌尿器科こそ女性医師を欲しています。ロボットなら体力に自信がなくても問題ありません、妊婦さんでも手術が可能です。患者さんも女性が多く、陰部となるとセンシティブな場面もあり女性医師が必要です。手術も内科もやる単科ならではの強みとして、男性医師も女性医師も自分の人生のステージに合わせた働き方を選べることは強みだと思います。また、これから九州の大学で初めてGI(性別不合)診療に力を入れていくつもりです。興味のある方はぜひ見学や研修に来てくださいね。

お問い合わせ先

担当：澤田 篤郎

T E L : 0985-85-2968
F A X : 0985-85-6958
e-mail : urology@med.miyazaki-u.ac.jp

泌尿器科 HP

http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/urology/

